



全国保育実践交流連絡会ニュース〈長野地区〉

2022年 7月発行

— 7月7日に年長交流をしました —

5月に1回目が予定されていた年長交流は、新型コロナウイルスの感染の為に中止となり、職員のみ zoom での交流となりました。「次は会えるといいね」と zoom 交流を終え、迎えた7月7日。2回目の交流は上高田保育園で行うことができました。コロナの関係で1園欠席となりましたが、残り3園の年長さんが集まりました。園に着くなり「おはよう!!」と元気に出迎えてくれた上高田の風組さん。バスでやってきた他2園の子どもたちも一気に気持ちがほぐれニコニコに。素敵な園舎と園庭に驚きと感動を溢れさせながら、すぐに遊び始めていました。「名前なんて言うの?」「どこの保育園?」自然と交流し合う姿があっちでもこっちでも沢山。「これはこうやって遊ぶんだよ」「まぜて!」と子どもたちもすぐさま打ち解け

ている様子でした。しばらくしてから、ピアノの音がきこえ、3園の年長さんがホールに集まりどの子も緊張しつつも誇らしげに座る姿が素敵でした。リズムは基本のリズム。自園のピアノとは違うピアノのリズムでしたが、よく見て・よく聞き・よく考えて一人ひとりが思い切り出し切りながら向かっていったな...と思います。リズムの最後に歌声が響き渡り子どもたちの歌声に感動しました。心地よい緊張感の中思い切り体を動かし、思い切り歌い、とても心地の良い充実した年長リズムとなりました。その後は順番にプールにも入り、汗をかけた後のプールあそびを楽しみました。



午後は、絵を並べて大人の話し合い。各園の様子を伝えながら、子どもの話をしました。帰りのバスの中でも「楽しかった!!」「おもしろかった!!」「ドキドキした!!」と興奮が止まらない子どもたち。自園に帰ってから絵をかいったり小さい子たちに報告したり、とても誇らしげでした。

直接会って交流するという事が、とても子どもたちにとって大きな刺激になり大きな成長につながるという事を実感した交流となりました。まだまだコロナ禍ですが感染状況を踏まえつつ、今できる最大限の活動を子どもたちに保障して行けるといいなと思いました。今年一年も交流を積み重ねながら、子どもにとっても大人にとっても成長と学びに繋がることを期待しています。



6/30～7/1と秋の全国研の下見がありました。

広い長野県の中を1日半かけての大移動。移動時間も長かったのですが、碌山美術館—ちひろ美術館・無言館—大島博光記念館—松代大本営と内容も濃いものとなりました。この2日間は全国的に6月としては記録的な暑さとなり、長野県も35度越え。そんな中、アルプスの山々に囲まれながら北へ南へとバス移動。ちひろ美術館では松本猛さんがお話をしてくださり、無言館の戦没画学生の声なき声に目を向け、大本営ではガイドさんが丁寧に話してくださり、汗をかきながら水分補給をしながら平和について考え、また戦時中の事実について知る事が出来ました。

(現地実行委員長より)

2020年、秋の研修会を長野県地区で開催することが決まり、成功に向け準備を始めたところで、新型コロナ感染症の関係で延期になりました。今年度、やっと全国のみなさまを迎えることができることになりました。

ちひろ美術館・無言館・松代大本営の見学と二日間にわたる講演を通して、「命の大切さ・重み」を再確認できる学びになることと思います。みなさん是非ご参加ください。



<写真：ちひろ美術館>

長野地区各園の様子・保育のひとコマ

山形 やまのこ保育園 はやぶさ（年長）

今年一年、子どもたちから発信される遊びや生活の提案を、共に考えながら実行する経験の積み重ねを大切に生活したいと思っています。最初の活動は鯉のぼり作りでした。鯉のぼりを作りたいと声があがり、鯉掴みをし、大きさ、形、鱗の模様、色等を相談し決め、作りあげていきました。また、「屋根より高い鯉のぼりにしたい」と、子どもたちから声があがり、近所の竹林に竹を取りに行き、空高く泳ぐ鯉のぼりになりました。

5月にはお泊り保育で入笠山登山に出かけました。その時パラグライダーが飛び立つ所を見て「やってみたい」「飛んでみたい」と憧れをもち、7月の登山で訪れた長峰山の斜面でパラグライダーごっこを楽しみました。今後も、12名の子どもたちのアイデアや集団の力で「やってみたい」を実現させることができる生活をしていきたいと思います。



海野保育園 たつのこ（年中）

年中たつのこ組が、浅間山麓の高層湿原池の平に行ってきました。高山植物の女王と言われるコマクサの群落を見ました。



またヒカリゴケもありました。子ども達は口々に「きれい!」「光ってる」と釘付けでした。



上高田保育園

かぜぐみ（年長）

7月、初めての登山「八方池」を心待ちにしていた子ども達、当日は

あいにくの天気となり行先が「黒姫高原苗名の滝」となりました。7.5kmのトレッキングコース、雨のため足元は悪く、滝の音が聞こえる辺りから急な下り坂と石・揺れる吊り橋・・・それまで賑やかだった子ども達の表情は真剣になり一步一步が自分との挑戦になっていました。そんな中でも遅れている

友だちに声を掛け合う姿もあり、仲間の存在があって3時間強の道のりを全員で歩ききる事ができました。大きな滝の下でお昼を食べる子ども達の顔は朝バスを降りた時の顔つきとは違っていました。これからもたくさんの経験をする中で、諦めない気持ちを持ちつづけるかぜさんになれるよう生活していきたいと思います。



松本 山の子保育園 おおわし（年長）

4月に雑巾縫いをしました!子ども達には「あと〇個寝たら雑巾縫いするよ～」と伝えていたので、始まる前は、楽しみ!でも難しそう…でできるかな?とドキドキしている様子がありません。



細かい作業はとても大変だけど、少しずつ縫い上がっていくことが嬉しくて、毎朝「今日もやりたい!」「夕方も!」と意欲的なおおわしさん。すごく集中しているので、完成した瞬間「終わった…」と、全身の力がフーンと抜ける感覚がこちらにも伝わってくるほどでした。前のおおわしさんにももらった雑巾も、毎日の雑巾掛けで穴だらけになったことだし、自分で縫った自分の雑巾を使おう!と大人が言うと、予想外の返事が子ども達から返ってきました。「えー…まだ使いたくない」「もう1枚縫ってそれができたらコレ使う!」「穴が空いた雑巾も布を当ててまた縫えばいいんじゃない?!」どれだけ嬉しかったんでしょう…(笑)

1人のお母さんが「ひと針ひと針が愛おしい」と言ってくれたのですが、本当に…、子ども達って素晴らしい!!

